

0630 | 絵画研究 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、川口起美雄教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、吉川民仁講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

油性、又は水性のいずれかの絵具の性質を選択し、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。油性系は、油彩画における基本的な技法を学ぶ。指定された色の混色を通して、絵画における彩色への展開と絵画空間の構築を学んでいく。又、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高める事により、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。

通信授業では、色数制限による油彩に取り組む。面接授業では、支持体や絵具層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は、水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶ。

通信授業は指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること彩色することを学んでいく。また、水を利用することや支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を体感しながら、構築すること表現をすることを知る。面接授業では絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題

〈油性系〉「色数制限」

- 1-1 イエローオーカー、ライトレッド、コバルトブルーの3色による色相環を作る。
- 1-2 ライトレッド+コバルトブルー+シルバーホワイト等の3色に色数制限し、油彩で制作する。
- 1-3 「1-2」と同じモチーフを、ライトレッド+イエローオーカー+コバルトブルー+シルバーホワイト等の計4色に色数制限し、油彩で制作する。

〈水性系〉「構築」

- 1-1 制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。
- 1-2 静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
- 1-3 組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材をともに3種類選択し、デッサンする。

○面接授業課題

〈油性系〉「絵画組成」

- 1-1 人物をモチーフにカマイユ等により下層描きから上層彩色へのプロセスを研究し、油絵具の可塑性、透明性等の特性及び画用液の特性を活かした表現を研究する。F12号キャンバス。

〈水性系〉「墨で描く作画」

- 1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150号程度の作品を描く。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画研究Ⅰ・Ⅱ 平成29年度』の「絵画研究Ⅱ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第3章「水性絵具」、第4章「古典技法」等を参照。

[面接授業]

〈油性系〉

第1日	午前：前提講義及び制作（絵画組成）	午後：制作（下層描き）
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：制作
第4日	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第5日	午前：制作（彩色）	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：採点・講評

〈水性系〉

第1日	午前：前提講義及び写生	午後：写生
第2日	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第3日	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第4～5日	午前：自由制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「絵画研究Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3年次編入学生を除く）。

[備考] 「絵画研究Ⅰ」、「絵画研究Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局刊行 2002年）

学習指導書：『絵画研究Ⅰ・Ⅱ 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）